

キラリ
光るまち

活かして生きる場所

久万高原町二名

4年余り暮らした沖繩を離れ、久万高原の山中・標高620mのこの地にやってきたのは2003年夏。

荒れた草むらの中にあつた建物―それが昭和40年代までは「センター」と呼ばれ、にぎやかに使われてたJAの元養蚕施設、宿泊棟でした。

「人と自然がともに生き、ともに依存しあう場所」を作ろうとしていた私たち（ゆらの）の発起人達からは「取り壊そう」という意見が続出。

それほどその建物は傷んでいました。「ここを残して活かそう」と考えたのは理由があります。膨大なごみを出したくなかったこと。それからこれだけの大きな建物をもう一度建設する予算は無かったこと。



小学生学外授業

幸いにも土台は腐っておらず、床や天井、内外壁などに手を入れてリニューアル。今では「ゆらの」のイベントでも活用する仕事の「工房」として活かしています。

由良野の森のこと

標高620m×800mにまたがる約13町歩の森。松山から車で約一時間で久万高原町二名にある「由良野の森」につきます。

森には、スギ・ヒノキの他、カシ、コナラ、モミジ、クヌギなどの雑木が茂り、コンサートや学習会、研修などを開く拠点となるゲストハウスと私たち管理人家族が暮らす自宅。

それに森の生態系などを研究する「由良野生態研究所」や「木工所」と「工房」があります。

由良野の森は人と自然が「ともにかかわりあう」様々な体験を通して私たち一人一人が「どう生きるか」ということを感じていく場所を目指して運営して、今年で9年目を迎えます。

ただ漠然と無意識に暮らしていると、私たちは人工物に囲まれ、便利で快適な暮らしに慣れていく時代。

あえてここでは体を動かし、五感で体験することを大切にしています。

水道もなく、テレビの電波も届かない場所。いろんな意味で貴重なこの森には「整った何か」はありませんが、「何も無い」ように見える里山で自由に「放人（ほうじん）」される場所と時間は何物にも代えがたいのではないかと思っています。

子どもにも大人にも…

管理されず教えられずに、ただただ自然を体験する「子ども森林博士号講座」を2か月に一度開催しています。

現在50回目

を迎えたこの講座では、植林や間伐をした後、シイタケの駒うち、森を駆け回って虫取りをしたり、川であそびながら水生昆虫を観察。

（回を重ねて、



染織工房天月主宰

鷲野 陽子



森林博士号講座

馬頭琴ライブ



釣りをしだすことも達も：こ
自然の中で疑問に思ったこ
とにこたえてはくれるけど、
こちらから講義はしないNPO
愛媛生態系保全管理の理事
長さんを講師としてお迎えし
ています。

山を歩いて野の花を愛で
る。山菜や木の実を採って食
べる体験も楽しいものです。

車の通らない、日の当たる
明るい森では初めて出会った
子どもたちもすぐに仲間にな
り(基地)を作ったり、木に登ったり沢を歩
いたり飽きることはありません。

山で作業した後は、薪を拾って来てたき
火をはじめ子どもたち。焼き芋はもちろ
ん、パンやソーセージを焼いたり楽しいこ
といっぱいあります。

(ゆらの)の活動
では特に子どもと大
人の活動に区切りを
つけていません。

『工房』では草木
染の体験や機織りな
ど手仕事のワーク
ショップも開催しま
すが、どれも学校の
子どもたちから大人
まで参加できるよう
にしています。

地元の農産物を
使って味噌を作った
時には若いお母さ



工房で機織り

んたちに連れられて、小さ
な子どもたちがたくさん手
伝ってくれました。

工房の染場にはビザ窯も
あるので、ビザ生地から作
るワークショップが好評で
す。イベントや研修の際の
お昼を自分たちで作るので、
レストランのない山の中で
も一日たのしむことが出来
ます。草木染の時に使う大
きな釜では、夏になるとう
どん打ち体験もします。

今年、松山の劇団に来ていただいて
シェークスピアを野外で観劇するイベン
トをしました。

工房もその日限定のカフェに仕立てまし
た。会員の方のご協力を得て昼夜2回公演
し、子どもから大人まで森に集っていただ
きました。

クラシックや民族楽器のコンサート。
植物の学習会。いろんな生き方を学ぶ(人間
学講座)など、ゆらのではたくさんのご縁を
いただいてやってきました。無理をせずあ
るがままの自然体でこれからも運営してい
きたいと思っています。

何も無いというほど。

コンビニもレストランもなく、おまけに
人もいない。

そんな限界集落と呼ばれる場所が今私た
ちの暮らす町にも点在しています。きつと
日本中同じなのでしょう。

そこにはけれど、面々と耕されてきた田
畑があり、人々を生かしてきた自然と知恵
があります。

「何も無い」ということは実は何もかも自
分たちの体と心で組み立てていく場所なの
だと最近気が付きました。

ここで暮らしてきた人から学ぶ。多くの
人とシェアする。誰かがきつとそこからヒ
ントを得ることもある。

かつて、センターと呼ばれ人が集まり、
笑い、汗を流していた場所。ここで大げさ
に構えずあらゆる年齢や職業、性別にか
わらずまた今ひとが集まり何かを体験す
る。

体験したら心が動くかもしれないし何も
ないかもしれない。「言うは易し行は難
し」「百聞は一見に如かず」現代を生きてい
く私たちと、その先に続く未来の子どもた
ちにこれからは(自然とかかわりあう)入口
をキープしていきたいなと考えています。



クラシック演奏会